

調査と分析 3 回分の成果

県民の幸福感や幸福に関わる様々な意識を把握して県政運営に活用しようというみえ県民意識調査は、3 回目となる今回もこれまでと同様、詳細な集計と解釈がなされました。比較的大きいサンプルのデータを3年間にわたり様々な角度から分析した結果、例えば結婚や子育て、就業、収入などの要因が幸福感に大きく関わるということが明らかになりました。

既存の調査で指摘され、すでに様々な場で論じられていることも多く含まれますが、三重県における事情を定量的に把握したこと、それも精密かつ詳細に把握したことの意義は明らかです。幸福感に16の幸福実感指標や、結婚・子育て・就業などについて具体的に尋ねた結果を組み合わせることで、本レポートにも述べられている通り、様々な仮説や県政運営への示唆が得られています。

更なる活用を

意識調査の意義は実査の後にあり、調査の本番は集計が済んでからとさえ言えます。この分析レポートや過去2回のレポートはそれ自体立派な、他自治体には例のないほどの成果ですが、調査の活用はこれで終わりではなく、このレポートをこれから活用していくことの方が重要であることは明らかです。

このレポートを活用する際は、第6章の総括的なまとめをある種の索引のように使っていただくことが重要です。そこにはこの調査から明らかになったこと、そこから得られる示唆などがかいつまんで整理されていますが、例えば「関連がある」とはどの程度なのか、何をもって関連があると解釈できるのか、レポートの本文の中で定量的に明らかにされています。データ集の集計表まで遡って参照すべき場面もあるでしょう。

また、相関と因果の区別についても留意していただきたいと思います。一般に、2つの量に相関(大小の対応関係)があるからといって、直接の因果関係があるとは限りません。AとBに相関がある場合、A→B、B→A、あるいは別の要因CがあってC→A・Bなど様々な因果関係があり得ます。因果関係があらかじめ明らかな場合を除き、別のデータと組み合わせたり、別途の質問を重ねたりすることで探るほかありません。

第4回以降の調査に向けて

これまでの3回の調査を通じて、安定した傾向や関係が観察されています。これらは三重県民の意識の構造(容易には揺らがない部分)といつてよいでしょう。これらは毎回調査する必要はなく、一定の周期で定点観測すればよいでしょう。一方、調査ごとの様々な変動も観察されています。この変動は実体の変化や差異を反映している場合もあれば、標本誤差やサンプルの偏りによる場合もあり、また隠れた変数が作用している可能性もあります。これらについては引き続き調査するとともに、新しい切り口から探ることが有効な場合もあるでしょう。

これまでの調査結果から得られた様々な仮説を検証できるような設問も、今後の調査に期待される事柄です。とりわけ上で述べたような因果関係を特定するための設問は、行政へのニーズ(果たすべき役割)がどこにどれだけあるかを探る上で重要な場合があるでしょう。

幸福と政策の関係

みえ県民意識調査の最終目的は、ここで得られた結果を県政運営に活用することです。もちろん、すでに様々な点で県政運営に反映されていることと思いますが、「幸福と政策の関係」はまだ必ずしも明らかになっていません。この点は過去2回の研究レポートへの寄稿でも述べたことですが、重ねて強調したいと思います。ただし、これはそれほど容易なことではありません。現在は、その目標に向かって着実に歩むべき段階です。

幸福と政策の関係、最終的には幸福の実感と政策の効果の関係を明らかにするためには、みえ県民意識調査の結果に、各政策分野において設定されている指標、それらに関連する様々な統計指標、政策そのものの実績情報などを照らし合わせ、可能であれば定量的に分析するなどの作業が必要です。ここでは各部署の役割も重要でしょう。またこのためにも、各部署が次回以降の調査における設問の検討にも積極的に関わることを期待します。